

「独立行政法人国際交流基金 日本語国際センター施設管理・運営業務」
民間競争入札実施要項（案）の主な審議の内容

＜確保されるべきサービスの質について＞

- 事業評価を踏まえ、快適性の確保に関連して実施するアンケートの達成指標を見直すなど、確保されるべきサービスの質の設定を一層適切に行うことが必要ではないか。

〔(独)国際交流基金の対応〕

アンケートについて、平成 23 年度の業務では、達成指標を大きく上回る調査結果（平均約 99%）が得られていることから、アンケートによる質の達成指標を、「80%以上の回答者から「満足」または「やや満足」の評価を得ること」とし、従来の実施における達成指標を 10 ポイント引き上げた。

また、各業務において受託事業者に求める質の達成状況が的確に反映される内容となるよう、アンケートの設問内容を見直した。

＜競争性の確保について＞

- 事業の評価を踏まえ、参入実績のない民間事業者においても、実施状況を踏まえた工夫（企画書の提案）が可能となるよう、実施要項等に実施状況の内容を十分に情報開示するなど、競争性の確保に配慮することが必要ではないか。

〔(独)国際交流基金の対応〕

入札説明会後にも実施要項や入札に係る事項について質問と質問への回答を入札参加者が共有できることを明記し、従来の実施状況に関する情報開示等を補い、入札参加者が創意工夫をできるようにした。

＜業務内容について＞

- 各業務において受託事業者に求める質について適切な説明がなされているか。

〔(独)国際交流基金の対応〕

車両運行業務の内容について、前回の実施要項では「安全運転を第一として、」との記載があったが、アンケートの設問でバスが快適だったかを尋ねていることとの関連性が明確でないため、当該部分を「安全運転を行うとともに、定期的に車両整備を行い車内の美観を維持する等快適さを提供する」との記載に修正し、併せて、アンケートの設問内容を見直した。

また、年間定期保守点検業務の内容について、前回の実施要項では「機械、装置の耐用年数を伸ばすこと」との記載があったが、耐用年数を伸ばすことを明確に求めるものではないため、当該業務において受託事業者に求める質を踏まえ、当該部分を「延命対策などの適切な保守の措置を講ずることにより、所定の機能を維持」との記載に修正した。